昭和60年度 青葉会 総会・懇親会 報告

（懇親会風景）

青葉会の「七夕」がやって来ました。11月23日空もさわやかに晴れ渡り、集う旧友の面々も若々しく、喜々としたこの光景は、この会ならではと云えましょう。会を重ねる度びに地方からの参会者も多く賑やかになりますことを会員一同喜びあっております。

□総会次第（定刻開会）

○開会のことば 川上副会長

○会長挨拶 石田弘会長

○名誉会長挨拶 藤川学校長

○会計報告 神崎敬子

○役員紹介 全員留任

以上それぞれ全会一致承認。

○校歌斉唱

□懇親会

働き乍ら学んだ仲間が毎年勤労感謝の日に集う。「この日は三田の友達と会える」が定着しました。

「小金馬」会を盛りあげる

石田会長の骨折りで噺家の三遊亭小金馬師匠を迎え、巧な話術に陶酔した。毎年の事乍らお料理はフジナオ。ウィスキー、グラス、バッグ等卒業生のサービスによる安売りもあった。

（前頁より）いろいろな小児弊害が出ているにも拘らず大病院の売店の回りには、ジュースの自販機が所狭しと並んでいるのはなぜだ。

「悪い〳〵と云いながら病院で売るのはけしからん――。」

この人もこの時病気に罹っていた。たち所に私は感染して、丸二年ほど病院をマーケティングターゲットとした自販機用飲料の開発で同病相哀れんだのである。

ひと度気違症に感染すると他の事が手抜き専科になる。その手抜き現像に社内も慣れてくれたので、病は重くなる一方である。

義理や立場上、いやいやながら引き受けたことでも、時に変化して他人に感染させることもある。

スッポンに魅せられて

最近のことである。某食品メーカーからスッポンの市場調査と関連商品の開発の依頼を受けた。

社内の会議では、当社のイメージと合わないと云う事でシラケムード。それでも一人で頑張ってみたが異論百出。

日本人独得の義理と人情とでも云うのか無下に断ることも出来ずに、孤軍奮闘して引受けることにした。

「月とスッポン」なぜこんな諺があるのか――？

「雷が鳴っても放さない」その根性は何なのか――？

川端康成の「古都」の中にも出てくるし、中国の周書、日本書紀、貝原益軒も書いている。この辺を調べる方が面白そうではある。

内水面試験所の飼育調査を手始めに、関係ある大学の水産学―動物学―栄養学の先生方を尋ね歩き、文献を捜し、台湾の飼育現状の調査まで狂りポッチでボチボチとレポート作りをしたものである。

ところが、ところがである。或る日、栄養成分の分析データーを整理していて驚いた。脂肪酸組成の素晴らしさと重要微量ミネラル群の含有に息をのんだのである。

この時、持病の気違症の発作が起きた。

再調査開始―製品化可否の調査、そして台湾での業者指導……。台湾通いが始った。

国によって習慣がある。米国には慣れたつもりでいるが台湾の事は殆んど知らない。昼食だと云うのに高粱酒と招興酒でカンペイ。一口食べてはヌカンペイ。両手で小さなグラスを持って目を合わせて乾杯をくり返す。

同じペースで飲むのが礼義―酒の弱い私には非常につらい時なのである。

昼食直後に養殖場へ行った時、養殖池の隔壁の上で身振り手振りで砂泥消毒の指示をしていたら、バランスを崩して池の中へドボーン。

水深約一メートル――……

「どうしました！」

現場の係員は大慌て……

「いやァースッポンに挨拶したのさ。――ワァハッハ」

咬みつかれやしないかと内心ビクビクしながら、二、三歩だけは悠然と歩いてみせる。

一から十迄、自分の目で確認しないと納得しないのも気違症の辱らしい。

解体現場の衛生状態もチェックする。臓器が取り出され分類されている。その中から特大ペニスをピンセットで取り出してチョン〳〵ついてみる。「スッポンは交尾時間が長いが――なぜか？」素朴な疑問をピンセットの先に集中させる。交尾するとペニスの先端は手の平を広げたようになるのである。そこを確認して「なるほど、成る程」文献通りである。

東京だけでなく「この店」と云われるスッポン料理店を開くと、何か得られるかも知れぬと二、三、人引き連れて繰り出してみる。断っておくがホルモン料理ではない。酒を少々、気分程度付けて一人前一～二万円はする。今日はこちら明日はあちらと、好き者を誘って十日も料理勉強会を続ける懐の方はスッポンポンになる。

気違症とは恐ろしい病ではある。

一病息災

お陰様で此頃では講演などでも少しは砕けた事が云えるようになった。年のせいかも知れない。

今、某病院の栄養誤から肥満症のカロリー制限食の研究委託を受けている。クレープスサイクルの皮下脂肪処理能力の理論を生かす為、生化学の先生廻りが始まろうとしている。

高校時代に心をひかれてから病気や健康問題と対峙して三十年。

貧困時代の栄養失調やら給食を思い出しながら、飽食の時代の栄養失調に悩む、時の流れを感じないではいられない。輸入促進・消費奨励の世相から飽食にますます輪がかかりそうだ。

一病息災・元気に生きたいものである。

ふと気になって前号、前々号の「ともかき」に目を通してみた。こんな内容のものは見当らない。またまた「ともかき」の品位を損なうやも知れぬと、気が咎める次第だ。

（サンコーパック社長）

（青葉会副会長）

あと三年で 母校創立六十周年を 迎える

ものの母校の歴史和史その

愈々母校もあと三年で創立六十周年を迎えます。戦前、戦後、激動、平和、安定と昭和史そのものの母校の歴史を振り返ると、そこで学んだ少女少年達は社会の大波にもみくちゃにされ通うでした。

四千八百は卒業生青葉会で校名は変っても永い伝統を保持し、着実な歩みを進めております。六十年の祝賀行事に会名の名簿完成を目標にしこの偉大な歴史の祝賀を意義あらしめようではありませんか。

家庭用 ・ 業務用
クレンリネス用品専門商社
有限会社
港屋佐藤国平商店
代表取締役 佐藤道雄 （29年卒）
東京都江東区佐賀2丁目7番12号 TEL 03(643)1071(代)
名古屋市東区大幸町9－49 TEL 052(711)8253